

平成29年度 作物技術普及情報 第11号

(出穂期予測、刈り取り開始予測、高温障害対策)

1 水稻の生育状況

豊科定点圃場のあきたこまち・美山錦は平年並みに、コシヒカリは平年より4日早く幼穂形成期を迎えました。

コシヒカリの生育は、平年より4日程度進んでいると思われます。

7月20日現在の出穂期予測では、コシヒカリは出穂期で「平年より4日早い」と推定されています。

あきたこまちは、7月下旬～8月初旬に出穂～穂揃い期を迎えると思われます。

コシヒカリでは、5月の連休中に田植えされたものは、7月末から出穂期を迎えると推定されます。

平年との生育進度の比較 7月20日 現在のDVI（発育指数）による生育進度推定
7月21日 以降 気温が平年並みに経過した場合

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合

コシヒカリ 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の予測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の予測日
本年	0.737	7月12日	7月19日	8月5日
平年	0.740	7月16日	7月23日	8月9日
平年差	平年より4日早い			

あきたこまち 稚苗	DVI	幼穂長 2mm の予測日	幼穂長 10mm の予測日	出穂期 の予測日
本年	0.857	7月6日	7月13日	7月29日
平年	0.878	7月6日	7月13日	7月28日
平年差	平年並み			

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

2 水稻の刈り取り開始予測

標高別・移植日別の「刈り取り開始予測」を開始します。「平年より2℃高温版」も記載しました。

これから出穂を迎えるため、あくまで予測ですが、「高温版」を目安にすれば、急な高温条件でも対応可能と思われるので、施設稼働の計画や収穫計画にご活用ください。

【 下表は 7 月 20 日現在の推定 】

5月15日植 (標高550m)		出穂期			刈り取り開始			成熟期			
		本年推定	昨年	平年値	登熟期間の気温			登熟期間の気温			
					平年並	平年より 2℃高	昨年	平年並	平年より 2℃高	昨年	平年値
あきたこまち	稚 苗	7月29日	7月24日	7月28日	9月3日	8月30日	8月29日	9月8日	9月4日	9月3日	9月9日
	中 苗	7月24日	7月17日		8月28日	8月25日	8月21日	9月2日	8月30日	8月26日	
コシヒカリ	稚 苗	8月5日	8月3日	8月9日	9月12日	9月7日	9月10日	9月17日	9月12日	9月15日	9月24日
	中 苗	7月31日	7月28日		9月6日	9月2日	9月3日	9月11日	9月7日	9月8日	

注) 成熟期の昨年度は、平28年 9月3日 の予測値

3 高温登熟障害対策について

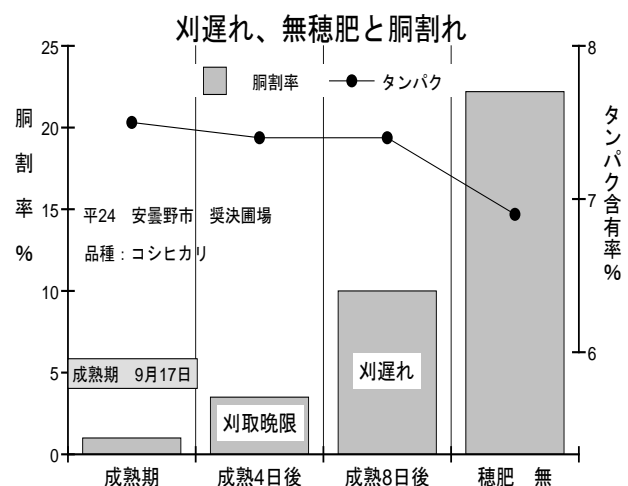
向こう1ヶ月の気温は「高い」と予報されておます。これまでも高温により生育が進んでいるので、今年も高温登熟障害対策に注意はらう必要があります。

これからのポイントは「黄化させすぎない適期・適量穂肥」と「出穂前後3週間の湛水」です。

- 穂揃期に葉色が黄化しすぎると、胴割米多発の原因となります。

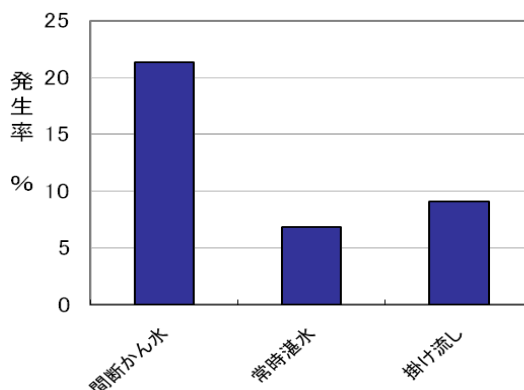
追肥を行わないなど、極端に葉色を黄化させる肥培管理は避けるようお願いします。

コシヒカリは穂肥時期を迎えています。生育状況に見合った穂肥をお願いします。



- 出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は圃場に水が入っている状態として、土壌水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟となるように、水管理の徹底をお願いします。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)

注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

4 いもち病について

アメダスデータやクroppナビによる発生予察情報では、6月末から発生好適条件・準好適条件が頻発しており、いもち病に注意が必要な状況です。

苗箱剤の効果が下がり始める時期でもあり、感染好適条件が続くと、いもち病の発生が懸念されます（例：平成23・25・26・27年）。

特に、常発地帯・昨年多発した圃場、有機物のすき混みの多い圃場、わらや脱穀の残渣を放置した場所、苗箱剤の未使用圃場、直播圃場等では今後のいもち病の発生状況（特に上位葉の病斑の有無）に、十分ご注意いただき、状況によっては追加防除を行って下さい。

また、平成23・25・26・27年に似た気象状況になると、穂いもちにも警戒が必要と思われます。状況によっては、穂いもちの防除もお願いします。

5 カメムシの発生状況について

7月19日、病害虫防除所から病害虫発生予察注意報第1号（斑点米の原因となるカメムシ類）が出されました。

病害虫防除所の調査によると、県下6地点に設置している予察灯のうち5地点（上田市、伊那市、飯田市、南木曾町、須坂野市）で斑点米の原因となるカメムシ類の中でアカヒゲホソミドリカスミカメの7月1半旬までの誘殺数が平年と比べて多く、7月上旬巡回調査の本田すくい取り（ネット20回振）でも、平年に比べ斑点米カメムシ類の捕獲地点率が高く、捕獲数はやや多かったとあります。

斑点米カメムシの発生及び被害は、ここ数年多い傾向で推移しています。水田畦畔や水田周辺の草刈りはカメムシ対策に有効です。カメムシの本田

への追い込みを防ぐためにも、出穂2週間前までに畦畔除草を済ませ、薬剤による適期防除をお願いします。